

麻疹風しん 1 期・2 期

麻疹風しん (MR) 混合ワクチン

☆生ワクチンです。

対象年齢・接種回数

1 期：生後 12 か月～24 か月（2 歳の誕生日の前日）までに 1 回

2 期：小学校就学前 1 年間（年長児相当）に 1 回

麻疹ウイルス及び風しんウイルスを弱毒化してつくったワクチンです。1 歳から 2 歳の間に麻疹又は風しんにかかる可能性が高いので、1 歳になったらなるべく早く 1 回目の予防接種を受けてください。

麻疹又は風しんにかかったお子さんも麻疹風しん混合ワクチンを接種できます。罹患していない方のみのワクチン（麻疹ワクチン又は風しんワクチン）で接種することも可能です。

麻疹（はしか）とは？

麻疹ウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、予防接種を受けないと、多数がかかります。主症状は発熱、せき、鼻汁、めやに、発しんです。最初 3～4 日間は 38℃前後の高熱と発しんがでます。高熱は 3～4 日で解熱し、次第に消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎（100 人中 1～6 人）、中耳炎（100 人中 7～9 人）、脳炎（1,000 人に 1～2 人）があります。亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は約 10 万例に 1～2 例です。予防接種を受けず麻疹にかかった方は数千人に 1 人の割合で死亡します。

副反応

主な副反応は発熱と発しんで、接種後 13 日以内に多くでます。また、接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発しん、かゆみなどがでることがありますが、1～3 日で治ります。

<麻疹ワクチン>

接種後 5～14 日の発熱率が定期予防接種の中では比較的高く、麻疹様の発しんも認められますが、通常 1～2 日で消失します。また、熱性けいれん、脳炎脳症の報告もあります。

風しんとは？

風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は 2～3 週間です。軽いかぜ症状で始まり、主症状は発しん、発熱、後頸部リンパ節腫脹などです。発しんも熱も約 3 日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

主な合併症としては、関節痛、血小板減少性紫斑病（3,000 人に 1 人）、脳炎（6,000 人に 1 人）などです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害のある子が生まれる可能性が高くなります。

<風しんワクチン>

まれに発しん、じんましん、紅斑、かゆみ、発熱、リンパ節腫脹、関節痛などを認めることがあります。重大な副反応としてはアナフィラキシー様症状などが報告されています。